

## 米国最大のユダヤ人団体「名誉棄損防止同盟」(ADL)が米国ユダヤ人のガザ停戦要求集会を「反ユダヤ主義」として攻撃

マイカ・リー(「インターセプト」の情報セキュリティ担当ディレクター)著、脇浜義明訳、田中一弘・大賀英二補訳、脚注はすべて訳注

The Intercept, 2023年11月11日

アメリカのユダヤ人は、全米で数千人のユダヤ人を動員し、ガザでの停戦を呼びかけている。ADLはこれらのユダヤ人団体を「ヘイト・グループ」と呼んでいる。

10月27日、数千人のユダヤ人とその支持者たちがガザ停戦を要求して、ニューヨーク市のグランド・セントラル駅の主要ターミナルを、ラッシュアワー時に封鎖した。これは「平和を求めるユダヤ人の声」(Jewish Voice for Peace, JVP)が呼びかけた平和的な座り込みで、参加者は「我らの名で虐殺をするな」(Not In Our Name)という文字が入った黒いTシャツを着ていた。ネット・ジャーナル『デモクラシー・ナウ』のエイミー・グッドマンは、「過去20年間以上の間にニューヨーク市で行われた最大の座り込み抗議行動だ」と評した。ユダヤ教のラビ(宗教指導者)を含む約400人が逮捕された。

「インターセプト」(The Intercept)の分析によれば、ADL(Anti-Defamation League)はこの抗議行動 — その他「平和のためのユダヤ人の声」(Jewish Voice for Peace, JVP)や「イフノットナウ」(IfNotNow)などのユダヤ人グループが行っている数十もの抗議運動を「反イスラエル」と分類し、米国で台頭している反ユダヤ主義の事例として記録しデータベースに入れた。

「イフノットナウ」の全国向けスポークスパーソンのエヴァ・ボルグワルト(Eva Borgwardt)は「反ユダヤ主義、白人民族主義、白人至上主義、ユダヤ人へのヘイト・スピーチや暴力は確かに増加しています。このような極右白人民族主義が高まっているときに、ユダヤ人を含むパレスチナ人の人権擁護運動をしている人々に反ユダヤ主義者というレッテル貼りをして、本当の反ユダヤ主義を曖昧にしているのは、信じられないほど無責任で、危険なことです」と私に語った。

10月7日のハマスの奇襲で1200人のイスラエル人(そのほとんどは民間人)が殺害され、200人以上が人質に取られてから、ADLは反ユダヤ主義事件が「急上昇」したとして、それを追っている。

2020年に100以上の進歩的団体 — 黒人の命のための運動(Movement for Black Lives, M4BL)<sup>1</sup>、アメリカ民主社会主義者(Democratic Socialists of America, DSA)、憲法上の権利のための法律センター(Center for Constitutional Rights, CCR)等々 — がADLに利用されるなど進歩陣営に呼びかける公開書面に署名した。理由は、ADLが「有色人種、同性愛者、移民、ムスリム、アラブ人、その他社会的に周辺化された人々のグループが率いる社会的正義を求める運動を攻撃し、他方で警察や極右や国家暴力装置と提携してきた歴史を持ち、現在もそれを継続している」からである。今やADLは新たな攻撃標的を得た — 進歩的ユダヤ人である。

イスラエルのガザ民間人への無差別殺戮 — これまで1万人<sup>2</sup>になり、そのうち4000人が子どもである — のために、イラク戦争以来最大の抗議の波が米国で起き、進歩的ユダヤ人の急増する

<sup>1</sup> Movement for Black Lives (M4BL) とは、ブラック・ライブズ・マター、全米黒人弁護士会議、エラ・バイカー人権センターなど50以上のグループの連合体

<sup>2</sup> 翻訳時点では15000人を越え、1年以上続いているウクライナ戦争の民間人犠牲者数より多い。

新たな活動も抗議の波に加わっている。イスラエルは10月7日以後ガザをノンストップで爆撃し、100万人以上の北部住民に立ち去れと命令したうえで、地上侵攻を行った。食糧、水、医療品、燃料のガザ搬入を止めて人道危機を引き起こした。世界の法学者はこれをパレスチナ人に対するジェノサイドと呼んだ。

「インターセプト」の取材に対し ADL は、停戦要求デモを「反イスラエル」だが「反ユダヤ主義」だとは思っていないと言ったが、ADL の CEO のジョナサン・グリーンブラット (Jonathan Greenblatt) の意見は異なっていた。10月18日、数千人のユダヤ人とその支持者の人々がガザ停戦デモを首都ワシントン DC で行った後に、ADL ワシントン DC 事務所は「反シオニズム」も「反ユダヤ主義」と同列だという声明を出した。グリーンブラットはイスラエル非難のデモを行う「平和のためのユダヤ人の声」などを「ヘイト・グループ」と呼んだ。首都ワシントン DC のデモでは25人のラビを含む約500人のユダヤ人が逮捕された。「これらのユダヤ人はユダヤ人コミュニティの中での急進的な少数派であり、たとえユダヤ人であっても反ユダヤ主義の汚名から免除されない」と、ADL スポークスパーソンが「インターセプト」に語った。

2021年に無党派のユダヤ有権者研究所 (Jewish Electorate Institute, JEI) が行ったユダヤ人有権者に対する世論調査は、米国ユダヤ人コミュニティにおいて、親パレスチナ派は決して少数派ではないことを明らかにした。調査対象者の25%がイスラエルをアパルトヘイト国だと見做し、34%がイスラエルは米国人の黒人差別と同じようにパレスチナ人を差別していると答え、22%がイスラエルはパレスチナ人のジェノサイドを行っていると言った。若い世代のユダヤ人になるとこのパーセントはもっと大きくなる。この世論調査はハマスの10月7日の攻撃やイスラエルのガザ大量殺戮以前のことで、今回の事件を受けての判断の変化を反映したものではない。

イスラエル・ガザ戦争が始まってからの米国人の考えを反映する上記のものとは別の世論調査が、左派シンクタンク「データ・フォー・プログレス (Data for Progress)」によって実施された。それによると、米国有権者の3分の2が停戦支持である。内訳は、民主党員が80%、共和党員が56%、無党派が57%である。それにもかかわらずバイデン大統領と民主党・共和党議員のほとんどは停戦に反対している。

米国ユダヤ人の多くと同じように、ガザのパレスチナ人虐殺に反対する進歩派ユダヤ人も、10月7日のハマスの奇襲で親族を殺され悲しむ者がいる。「10月7日から数日後、『イフノットナウ』のメンバーの幾人かが自分の親族や友人やその身内が10月7日の攻撃の犠牲になったことを知った。これは非常に身近なことであり、痛々しい発見だった」と、イフノットナウのスポークスパーソンのボルグワルトが言った。

## ADL の親イスラエルマップ

10月24日、ADL は「10月7日以降米国で反ユダヤ主義につながるヘイト事件が、昨年と同時期より400%も増加した」と新聞発表した。この統計の出典は、ADL が「ハマスのイスラエル攻撃以降の米国における反ユダヤ事件と反イスラエル集会」を記録したデータセットをインタラクティブ・マップとして公開したものである。ADL は生データを誰もが見て利用できる形でネット配信していないが、ウェブ・ブラウザで読み込めば、バックグラウンドで帝王するデータセットの一部をコピーしたものがダウンロードできる。私がマップのダウンロード中に、ブラウザが何をダウンロードしたかを監視することで、データのコピーを抽出し、スプレッドシートとして保存することができた。生データは同じ事件を重複して記録しているので、重複や繰り返しを修正した

結果、「反ユダヤ事件と反イスラエル集会」の事例は1163件となった。ADLのデータ・マップは絶えず更新されている。私が修正して保存したデータは11月9日段階のものである。

マップに挙げられたデータは「攻撃」、「ハラスメント」、「破壊行為」、「反イスラエル集会」、「テロ支援を伴う反イスラエル集会」の5つのカテゴリーに分類されている。これらのうち、「攻撃」「ハラスメント」「破壊行為」の3カテゴリーが全体の46%を占め、確かに反ユダヤ主義、白人至上主義と呼べるヘイト行為のカテゴリーは、ドナルド・トランプを大統領に選んだ2016年選挙以降アメリカが目撃してきた反ユダヤ主義と白人至上主義の顕著な高まりを示す憂慮すべき証拠に満ちている<sup>3</sup>。

ADLが10月7日の攻撃以降に記録したデータを例示する。

\*10月8日、ユタ州ソルトレイクシティで、ユダヤ教のシナゴークに爆弾を仕掛けたという謎の電話。

\*10月13日、カリフォルニア州ビバリーヒルズで、安息日の散歩中のユダヤ人一家に「カイク！」(kike)というユダヤ人に対する侮辱語が浴びせられた。

\*10月18日、ニューヨークのマンハッタンで、地下鉄駅の壁に「ユダヤ人を殺せ」という落書きがあった。

\*10月23日、ワシントンDCで、小学校でナチスのカギ十字の落書きが発見された。

\*10月25日、ニューヨークのホワイト・プレーンズで、「ハマスに人質に取られたイスラエル人を返せ」と要求する徹夜の座り込みの前を、ナチのカギ十字とパレスチナの旗を掲げた自動車がこれ見よがしに走った。」

\*10月28日、テネシー州ノックスビルで、反ユダヤ主義ヘイト・グループ「ゴイム防衛同盟」(Goyim Defense League)<sup>4</sup>が「LGBTQ+運動のあらゆる面にユダヤ人がいる」というビラを撒いた。

\*11月3日、ワシントン州シアトルで、「シナゴークへ白い粉が入った怪しげな郵便物が届けられた。」

マップに記録された46%の3カテゴリー以外の54%は、すべてパレスチナに関わる抗議行動であって、「反イスラエル集会」が39%、「テロ支援を伴う反イスラエル集会」が15%である。これらの集会では参加者は停戦、米国のイスラエルへの無条件の軍事支援の停止、ガザでのジェノサイドの停止を要求しているものであった。建前的にはADLスポークスパーソンは「反イスラエル集会だけであるならば、我々はそれを反ユダヤ主義とは思わない」と言ったのだが・・・。

---

<sup>3</sup> トランプとその支持者は「親イスラエル」でユダヤ人差別者という複雑な特徴を持つ。イスラエル・ロビーはトランプ派の反ユダヤ主義に目を閉じている。

<sup>4</sup> goyim は非ユダヤ教徒を軽蔑的に表すイディッシュ語及びヘブライ語。



2023年10月18日、ワシントンD.C.で開催された「平和のためのユダヤの声」主催の停戦集会で、デモ隊を拘束する警察。Photo: Matt McClain/The Washington Post via Getty Images

私は「平和のためのユダヤ人の声」と「イフノットナウ」の全国及び地域のSNSアカウントを見て、彼らの行った集会とADLのマップに記録された集会の日にちや場所が一致するかどうかを調べた。その結果、一致したのは約10%であった。ADLにデータセットの全面開示を要求したが拒否された。従って同じ日に同じ場所で行われた他の運動や闘争をADLが間違っただけでマップに記載したのかもしれない。

「インターセプト」の質問に対してADLは、10月18日の議事堂へのデモ行進や10月27日のグランド・セントラル駅での座り込みなど、ユダヤ人が参加した大規模な抵抗運動をマップに記録していると言った。

以下、イスラエルがガザへの無差別爆撃を始めてから米国ユダヤ人が組織した停戦要求とジェノサイドに反対する抗議行動で、ADLも確認したものを挙げる。

\*10月13日、シアトルで、ワシントン州選出の民主党上院議員パティ・マレー (Patty Murray) の事務所を、15人のユダヤ人が、議員がガザ停戦要求を支持することと米国のイスラエルへの軍事援助をやめさせることを要求して、占拠した。6人が逮捕された。

\*10月16日、1000人を越えるユダヤ人と支持者たちが、バイデンに停戦を支持せよと要求して、ホワイトハウスの入り口を封鎖した。このとき「イフノットナウ」はツイートで「私たちは、ハマスの犠牲になった親族を埋葬し、人質の解放を待ちながら、イスラエル政府に爆撃をやめよと叫んでいるイスラエル人兄弟たちのためにも声をあげているのです」と述べた。この時の逮捕者は少なくとも30人であった。

\*10月23日、ニューオーリンズ市で、ルイジアナ州選出の民主党下院議員で親イスラエル派

のトロイ・カーター (Troy Carter) の事務所の前で、停戦を支持せよと要求する集会を行い、何人かのユダヤ人が事務所を占拠した。

これらはADLのデータセットには、私がSNS上の検索で発見したユダヤ人主催の停戦要求運動数十件は含まれていなかった。例えば、10月13日、数千人のユダヤ人がニューヨーク州選出の民主党上院議員でユダヤ系のチャック・シューマー (Chuck Schumer) に停戦を支持せよと訴えて、ブルックリンにある彼の自宅の前の道路を封鎖した。このとき数十人のユダヤ人が逮捕された。その中にはラビとホロコースト生存者の子どもも含まれていた。さらに10月19日、ユダヤ人たちは、同じようにガザ停戦を支持せよと求めて、カマラ・ハリス (Kamala Harris) 副大統領と彼女の夫であるユダヤ人弁護士のダグラス・エムホフ (Douglas Emhoff) が住んでいるロサンゼルス家の前で抗議デモを行った。これらの抗議活動は、他の数十件の抗議活動と同じように、ADLのデータ・マップに載っていない。

### 「テロ支援」

「インターセプト」はADLが「テロ支援行為」とカテゴリー化した米国ユダヤ人の集会もADLスポークスパーソンが私に語ったところによれば、『「テロ支援」カテゴリーに入れる基準は、参加者がハマスの10月7日の虐殺を正当化したり称賛する言葉や画像を使う集会、イスラエルへの武装抵抗を支持するような言葉がある集会、あるいは米国がテロ組織と規定している団体の旗が見られる集会』であるかどうかである。

「ヨルダン川から地中海まで」という言葉はテロを支援する言葉になるのかと、「インターセプト」が具体例を挙げて質問すると、そうだと答えた。ADLスポークスパーソンは、「10月7日のハマスのイスラエル人虐殺の直接的影響として、パレスチナ人の抵抗拡大の呼びかけ、「ヨルダン川から地中海まで」の土地の全面的な解放を呼びかける言葉は、イスラエルへの武装闘争の呼びかけ、ハマスの行動の支持を表現する言葉だと、我々は解釈する。従って、『「テロ支援」カテゴリーに入る』と言った。

パレスチナ支援運動の中で「ヨルダン川から地中海まで」という言葉は、パレスチナの郷土にあたる土地でパレスチナ人がイスラエル人と並んで自由・平等に平和な市民生活を送る権利があるという意味で長く使われてきた。ハマス指導部はイスラエル国家を滅ぼしてパレスチナをイスラム国家にしたいと望んでいるようだが、そのハマスもこの言葉をスローガンにしているために、イスラエル人とユダヤ人は、これをイスラエルからユダヤ人を暴力的に追い出すことを意味する言葉と思っている。

もう一つ、10月7日以降ネオ・ナチがパレスチナ連帯の抗議行動に自ら参加させようとしている傾向が見られると、米国のVICE誌が報道している。パレスチナ人支援が動機でなくユダヤ人嫌悪が動機である。例えば、10月28日、「白人公民権」推進を唱える国民正義党のネオ・ナチ40人が、ガザ停戦を訴えるホワイトハウス前の集会を、拡声器で反ユダヤ主義声明を流して、ハイジャックした例がある。ガザ停戦を訴えている数百人の人たちはネオ・ナチとはまったく無関係であった。同じように最近NSC-131, (ナショナルリスト・ソーシャル・クラブ131)、国家社会主義フロリダ、ホワイト・ライブズ・マターなどのネオ・ナチ団体が親パレスチナ言語を使ってユダヤ人攻撃プロパガンダを展開した。

### 停戦を求めジェノサイドに反対するユダヤ人の運動の急増

進歩的ユダヤ人季刊誌『ユダヤの潮流 (Jewish Currents)』のポッドキャスト「オン・ザ・ノーズ (On the Nose)」の最近号で、「平和のためのユダヤ人の声」の組織戦略ディレクターであるエレナ・スタイン (Elena Stein) が、ハマスの攻撃の後「パレスチナ人とイスラエル人の生活が完全に絡み合っていることがすぐに明らかになった」と書いている。そして彼女は、アパルトヘイトと入植者植民地主義を続けるイスラエル国家が「パレスチナ人に対して毎日のように行っている恐ろしい暴力をふるっている」こと、それは「イスラエル人を安全圏に置かない」と言う。

スタインはイスラエル・パレスチナにおける暴力とジェノサイドを止めるうえで米国ユダヤ人が重要な役割を担っており、それがパレスチナ人とイスラエル人の命を守るうえで大切だと書いている。「パレスチナ人の命を毎日危険に追い込み、同時にイスラエル人の命を危険に追い込んでいるこの米国とイスラエルの共謀を止めるのは我々米国ユダヤ人 — この戦争にカネと武器を注ぎ込んで拡大しイスラエルのアパルトヘイトを全面的に擁護している国の国民である我々の義務である」と語っている。

米国ユダヤ人のガザ停戦を求め、ガザのジェノサイドに反対する反戦運動は鎮まる気配を見せない。11月13日には、数百人のユダヤ人とその友人たちは「(ホロコーストを) 誰にも二度と起こさない」という横断幕を掲げて、自由の女神像を占拠した。

金曜日、イスラエルは、10月7日のハマスの攻撃による死者数は、当初報道された1,400人ではなく、1,200人に近いと指摘した。記事は更新されている。